



米子市埋蔵文化財センターたより

第18号

2015年9月



米子城の謎の解明にむけて - 学術調査はじまる -



左 米子城の天守台



右 発掘調査風景

米子市の中心地市街地の標高90mの湊山にある米子城は、山陰地方で始めて築かれた本格的な近世初頭の平山城です。山頂に五重の天守閣と四重の副天守閣(四重櫓)の大小二つの天守を持つ壮麗な城郭で、麓には二の丸、三の丸が控え、周囲には内堀と外堀を巡らしていました。当時の建物は全て失われていますが、石垣や礎石などは城郭の形態をよく留めており、また文献資料なども多く残されていることから、貴重な歴史遺産として、平成18年1月に国の史跡に指定されました。

現在、米子市教育委員会では「米子城跡保存整備事業」に基づき、史跡内の内容確認を目的とする発掘調査を行っています。4～5月に行った事前の踏査では、湊山の樹林内に雛壇状の郭や石垣などの遺構が確認できました。これを元に、今回は遺構の可能性が高い場所20箇所にトレンチを設定し調査する予定です。調査は、まずは天守登城路付近の平場から始めました。この場所は幕末に鹿嶋家が四重櫓の補修を行った時に作業場として使用した「八幡台」という説がある場所です。人力で表土を10cmほど剥ぐと、早速、破碎泥岩による版築面が現れました。版築面上には矢穴の残る大型の切石や破碎礫、剥片などが散っており、この場所で切石を加工していたことが解ってきました。幕末頃の陶磁器のかけらも出土していることから、ここは四重櫓石垣に積み上げる切石の最終的な加工場だったと推察されます。

発掘調査は、絵図や文献に載っていない当時の生の資料に当たることになり、今回出土した遺構や遺物の断片を繋ぎ合わせていくことで、新たな米子城の姿が浮かび上がってくると考えます。

まだまだ調査は始まったばかりですが、どんな発見があるのか、慎重に調査を進めながら期待に胸は高まります(濱野)。

整 理 作 業 情 報

－川平鉄山跡の整理作業－

整理室では、昨年 11 月に実施した江府町久連の「川平鉄山跡」発掘調査の整理と報告書作成作業を、今年の 6 月から進めています。発掘調査地点は「川平鉄山跡」の砂鉄洗い場の一部で、発見した石組や石列等の遺構図や遺物実測図の作成を行いました。出土遺物は大量に廃棄された鉄滓のほかには、陶磁器や鉄鎌など極わずかでしたが、これまで知られていなかった川平鉄山の様子が報告出来るものと考え、報告書作成に懸命に取り組んでいます。(小原)



陶磁器



大鍛冶炉のふいごの羽口

整 理 室 た よ り

米子市立山陰歴史館に収蔵されている考古資料の整理

米子市埋蔵文化財センターでは、考古資料整理の一環として、米子市立山陰歴史館収蔵の考古資料の整理を行っています。山陰歴史館の考古資料は、明治から昭和 40 年頃までに収集されたもので、日本国内の遺物の他に中国や朝鮮などの遺物もあります。これらの資料は、主に足立正氏が収集したもので、その他に市民からの寄贈品や佐々木謙氏、大村俊夫氏などが収集されたものです。



山陰歴史館収蔵の大日寺「瓦経」

写真は、倉吉市の大日寺の山中から出土した「瓦経」です。「瓦経」とは平安時代の末法思想により、経典を京塚に埋納する目的、粘土板に経文を刻んで焼かれたものです。大日寺の「瓦経」は、延久 3 年（1071）銘のものがあり、年代の判る貴重な資料で、奈良国立博物館にも収蔵されています。

米子市街地から東8kmの大山西麓の大谷台地上の喜多原地内の丘陵には、主に弥生時代から古墳時代の集落跡の喜多原第1遺跡から第5遺跡が知られています。

喜多原第5遺跡は、2006年8月に喜多原学園の改築工事に伴って発掘調査されました。調査の結果、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡12棟、掘立柱建物跡7棟、溝状遺構5基などと共に多数の土器、石器、鉄器が出土しました。

なかでも溝の中に柱を建てる布掘りの掘立柱建物跡が検出され壁立ち建物として注目されました。また、竪穴建物跡の一棟から鉄製品の破片が多数出土し、床面の広い範囲に被熱面があり、鍛冶を行っていたことが分かっています。(小原)



上 B区全景 下 布掘掘立柱建物跡

コラムー奈良時代を掘る③

ー 博労町遺跡 ー

博労町遺跡は、米子市街地の中で発見された遺跡です。2007年～2008年にかけて、県立米子工業高校改築工事に伴って発掘調査されました。

市街地では1995年に旧県立米子西高校の跡地から錦町第1遺跡が発見されており、この遺跡が内浜砂丘に立地しており、米子工業高校も内浜砂丘に立地するため、学校のグラウンド下を試掘調査しました。その結果、砂丘のクロスナ層から弥生時代後期から中近世にわたる遺跡が発見されました。奈良～平安時代の遺構は掘立柱建物跡、柵列、竪穴状土坑、溝状遺構、井戸、土坑等で、墨書・刻書土器や帯金具、石帯、のほか鍛冶関係の遺物も出土しました。そのため奈良時代には古代の役所的なものが置かれていたと考えられています。



上 クロスナ堆積 下 帯金具・石帯

センター・資料館日誌

- 7月1日 米子南高生2名をインターンシップで受け入れた。(3日間)
- 7月22日 なかよし学級への古代体験出前講座を開始した。
- 7月23日 財団連携事業こども夏休み体験ツアーが「勾玉づくり」体験をするため埋文センターへ来館した。
- 7月25日 弥生時代ネットワーク会議が弥生式土器調査で来館された。
- 7月27日 財団連携事業こども夏休み体験ツアーが福市で火起こし体験をした。福岡大学院生が須恵器等の調査で来館した。
- 7月29日 五千石公民館地域学習会が福市考古資料館と埋文センターへ来館した。
- 7月30日 ペアール・キッズスタジアムの子供たちが埋文センターで「勾玉づくり」体験をするため来館した。
- 8月10日 なかよし学級への古代体験出前講座を終了した。
- 8月26日 津山市中央公民館講座の役員が遺跡見学計画の調査で来館された。
- 8月26日 国立米子高専生2名をインターンシップで受け入れた。(3日間)
- 8月29日 第43回山陰考古学研究集会在大山寺で開催された。
- 9月1日 出雲弥生博物館の高橋氏が戦争遺跡調査で来館された。
- 9月4日 出雲弥生博物館の特別展貸出遺物の返却があった。
- 9月14日 古代出雲歴史博物館の角田氏がミニチュア土器資料借用で来館された。
- 9月17日 鳥取県立博物館大島氏が焼夷弾調査で来館された。
- 9月26日 日本貿易陶磁研究会山陰大会が米子市文化ホールで開催された。

行事案内

福市考古資料館・特別展

「古代の玉」

「玉」は美しいアクセサリーと同時に靈力があると考えられていました。米子の遺跡から出土した「玉」を展示し、その魅力を探ります。



会 期 平成27年9月30日(水)
～11月30日(月)
毎週(火)・祝日の翌日休館
観覧料 無 料

編集後記

暑い夏が過ぎ、すっかり秋らしくなり、埋文センターの花壇では、コスモスが花盛りとなりました。今年は発掘現場がありませんが、鳥取県西部で山陰考古学研究集会や貿易陶磁研究会が開催されるなど研究発表の成果が上がっているようです。

発行日 平成27年 9月30日
発行者 米子市埋蔵文化財センター
指定管理者 (一財) 米子市文化財団
電話 0859-26-0455
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp

